

寿福祉センター保育所における自己点検・自己評価（職員用 1/2）

* 2025年度の保育全般を各職員が総合的に評価し、その平均値を掲載しました。

- 5 : たいへん良い
 4 : 良い
 3 : 大体良いが更に良くできる(もう少し学べば深められる)
 2 : 検討を要する
 1 : 改善を要する

I. 保育の計画の編成と実施に関する評価

項目	内容	評価
① 目標 保育	(1) 目標は、各施設や、地域の特色を活かしているか。	3.8
	(2) 目標は、全職員で検討し、かつ共通理解を図っているか。	3.4
② 保育	(1) 保育所保育指針をふまえ、指導計画を乳幼児の実態に即して作成しているか。	3.8
	(2) 環境の構成を意識した保育や過程を常に工夫しているか。	3.3
	(3) 素材・用具を適切に活用しているか。	3.4
	(4) 評価結果を基に、保育の改善に努めているか。	3.5
③ 行事	(1) 行事のねらいを計画や実施に十分生かしているか。	3.7
	(2) 乳幼児の自主的・実践的な活動にしているか。	3.6
	(3) 計画・実施・評価・改善の体制をとっているか。	3.5
	(4) 保護者の願いや意見を取り入れているか。	3.7
④ 食育	(1) 目標は、全職員で検討され共有されているか。	3.4
	(2) 食に興味を持てるよう、年齢別の食育活動を行っているか。	3.5

II. 開かれた保育所づくり

項目	内容	評価
① 施設 連携 交流	(1) 他施設等と交流をしているか。	3.9
	(2) 参観や保育に参加する機会があるか。	4.1
	(3) 必要に応じて他施設と情報を交換し、それを交流活動に活かしているか。	3.9
② 地域 家庭	(1) 参観時間を制限せず、保護者以外も対象にした参観日・見学日・保育参加日等を設定しているか。	3.8
	(2) 保護者を含む地域の人材活用の時期・内容は適切か。	3.6
③ 子育て 推進 支援	(1) 地域の子育て支援として、園庭や保育室等を開放しているか。	3.9
	(2) 職員による、育児に係る「子育て相談」は充実しているか。	3.7
	(3) 医療機関、児童相談所等の専門機関と連携を図り、保護者にとって必要な情報を提供しているか。	3.9
④ 情報 の 発	(1) 保育園だより・クラスだより、ホームページ等で施設の情報を発信しているか。	4.1
	(2) 行事や子育て支援事業等を、地域の連絡会や関係施設等に周知しているか。	4

Ⅲ. 保育の計画の編成と実施を支える諸条件に関する評価

	内容	評価
① 体制	(1)職務内容が明確で協働できる体制になっているか。	3
	(2)係りや仕事の分担・割り当ては適切か。	3.1
② 運営	(1)職員相互がそれぞれ全体的立場を理解し、協力や助言を惜しむことなく施設の運営に関わっているか。	3.1
	(2)打ち合わせ回数、時間、内容は適切か。	3.2
	(3)「ヒヤリハット」を記録・共有し、以後の保育に役立てているか。	3.8
③ 年齢別・ クラス 運営	(1)年齢別・クラス目標は、保育目標や乳幼児の実態に基づいて設定しているか。	3.8
	(2)年齢別・クラス目標に即して短期・長期のねらいを適切に設定しているか。	3.8
	(3)同年齢および異年齢児間の効果的な活動の充実を図っているか。	3.7
	(4)職員の連携は十分に取れているか。	3
	(5)評価(資料・諸記録)はしているか。	3.8
④ 保健・ 安全 指導	(1)避難訓練・交通安全指導を、計画に基づいて適切に実施しているか。	3.9
	(2)健康・安全な生活に必要な習慣や態度育成のために、家庭への啓発を行っているか。	3.9
	(3)乳幼児の安全確保のため、家庭・地域社会・関係機関等と連携を図っているか。	3.9
	(4)基本的なアレルギーの種類や特質について理解し、アレルギーの子どもの援助をしているか。	4.2
⑤ 研修	(1)研修の計画・運営は適切か。	3.8
	(2)施設内・施設外研修に積極的な姿勢で参加し、専門知識や技能を高め、日々の保育や業務に反映させているか。	3.8
⑥ 情報	(1)守秘義務を守り、乳幼児や保護者に関する個人情報을適正に取り扱っているか。	4.2
	(2)子どものことやクラスのできごと等で必要なことは、職員間で報告・連絡・相談をし、情報を共有しているか。	3.9
⑦ 施設・ 設備	(1)施設内外・設備の安全点検を計画的に行っているか。	4
	(2)遊具・用具等を活用しやすいように整理・保管しているか。	3.6
	(3)不審者に対応する配慮を行っているか。	4
⑧ 出納・ 経理	(1)資材の有効利用や経費の節減に努めているか。	3.7

寿福祉センター保育所における自己点検・自己評価（管理職用 1/2）

* 2025年度の保育全般を管理職員が総合的に評価し、その平均値を掲載しました。

- 5 : たいへん良い
 4 : 良い
 3 : 大体良いが更に良くできる(もう少し学べば深められる)
 2 : 検討を要する
 1 : 改善を要する

I. 保育の計画の編成と実施に関する評価

項目	内容	評価
① 保育目標	(1) 目標は、どのように特色を活かしているか説明できる。	4.5
	(2) 目標は、全職員で検討し、かつ共通理解を図れるようにしているか。	3.8
② 保育	(1) 保育所保育指針をふまえ、指導計画を乳幼児の実態に即して作成しているかを確認し、必要に応じて適切に助言、指導をしているか。	3.7
	(2) 日々の保育に目を配り、必要に応じて適切な助言や指導、声掛けをしているか。	3.7
	(3) 評価結果を基に、保育の改善に努めているか。	3.7
③ 行事	(1) 計画・実施・評価・改善の体制に自ら関わり、実践しているか。	3.7
	(2) 乳幼児の自主的・実践的な活動にしているか。	3.7
	(3) 保護者の願いや意見を取り入れられるよう、日常の中で保護者とのコミュニケーションをとっているか。	4.3
④ 食育	(1) 目標は、全職員で検討し、かつ共有できるようにしているか。	3
	(2) 年齢別の食育活動が行われるように助言をしているか。	3.3

項目	内容	評価
① 施設間連携・交流	(1) 他施設等と交流をしているか。	4.5
	(2) 参観や保育に参加する機会を設け、周知しているか。	4.3
	(3) 必要に応じて他施設と情報を交換し、それを交流活動に活かしているか。	4
② 地域・家庭	(1) 参観時間を制限せず、保護者以外も対象にした参観日・見学日等を設定しているか。	4
	(2) 保護者を含む地域の人材活用の時期・内容は適切か。	3.8
③ 子育て支援の推進	(1) 地域の子育て支援として、園庭や保育室等を開放しているか。	3.8
	(2) 職員による、育児に係る「子育て相談」は充実しているか。	3.3
	(3) 医療機関、児童相談所等の専門機関と連携を図り、保護者にとって必要な情報を提供しているか。	4.3
④ 情報の発信	(1) 保育園だより・クラスだより、ホームページ等で施設の情報を発信しているか。	4
	(2) 行事や子育て支援事業等を、地域の連絡会や関係施設等に周知しているか。	3.8
⑤ 外部評価	(1) 第三者評価を導入し、施設運営に反映させているか。	4.3
	(2) 地域や保護者意見を施設運営に反映しているか。	3.8

Ⅲ. 保育の計画の編成と実施を支える諸条件に関する評価

	内容	評価
① 体制	(1) 職務内容が明確で協働できる体制になっているか。	2.8
	(2) 係りや仕事の分担・割り当ては適切かどうかを見直しているか。	3.3
② 運営	(1) 職員相互がそれぞれ全体的立場を理解し、協力や助言を惜しむことなく施設の運営に関わられるような環境作りをしているか。	2.8
	(2) 打ち合わせ回数、時間、内容は適切か。	3
	(3) 「ヒヤリハット」を記録・共有するようにし、以後の保育に役立てられるようにしているか。	3.8
ク③ ラ年 ス齡 運別 営・	(1) 年齢別・クラス目標、およびねらいは、保育目標や乳幼児の実態に基づいて設定しているかを確認し、必要に応じ適切に助言、指導をしているか。	3.7
	(2) 職員の連携は十分に取れているか目を配り、必要に応じて助言等を行っているか。	3.7
	(3) 評価（資料・諸記録）等に目を通し、必要に応じ適切に助言、指導および改善を行っているか。	3.3
④ 保健 ・ 安全 指導	(1) 避難訓練・交通安全指導の計画を作成し、それに基づいて適切に実施しているか。	3.8
	(2) 乳幼児の健康・安全な生活に必要な習慣や態度育成のために、家庭・地域社会・関係機関等と適切に連携を図っているか。	3.8
	(3) 基本的なアレルギーの種類や特質について理解し、アレルギーの子どもの援助をしているか。	3.8
⑤ 研修	(1) 研修の計画・運営は適切か。	3.8
	(2) 自身も含め、職員全員が施設内・施設外研修に参加できる機会を作り、職員の資質向上に努め、日々の保育や業務に反映できるようにしているか。	3.8
⑥ 情報	(1) 守秘義務を守り、乳幼児や保護者に関する個人情報을適正に取り扱っているか。	4
	(2) 子どものことやクラスのできごと等で必要なことは、職員間で情報を共有できるようにし、自身も状況の把握に努めているか。	4
	(3) 公文書收受、発送、処理は適切に行っているか、また各表簿は適切な方法で作成・処理しているか。	4
⑦ 施設 備設 ・	(1) 施設内外・設備の安全点検を計画的に行っているかを確認し、必要に応じて適切に助言、指導をしているか。	4
	(2) 不審者に対応する配慮を行っているか。	3.8
⑧出納・経理	(1) 資材の有効利用や経費の節減に努めるよう心がけ、職員が意識できるようにしているか。	3

【寿福祉センター保育所 総評】

【職員の連携強化】に取り組む中で、今年度は異年齢の活動が増えました。夏の水遊びやプール遊び、お散歩や給食、お昼寝等日々の生活の中で異年齢の関わりが増えたことで年上の子どもが年下の子どもに声をかけたり、お世話をする姿、可愛がる姿が見られ優しさや思いやりが育ってきたと感じました。年下の子ども達は自分たちがお兄さんお姉さんになった時、きっと同じように優しく接することができるのではないのでしょうか。

今年度も【地域との関わり】は深く、サッカー教室やアート体験、ハロウィンや豆まき等の他、育児講座や見学に訪れる様々な方々との関わりの中で、ご家庭や保育所以外の方々に可愛がってもらっています。社会性の育ちにはかかせない経験です。

中区ならではの龍舞体験やコマ回し、駅伝大会等で他園の子ども達とも交流することができました。地域や他園の方々の協力あってこそその活動です。

また中消防署のお誘いを受け、地域の消防団に4名の職員が入団し地域防災への取り組みに参加しています。「消防団協力事業所」の認定を受けました。

【保護者参加】の行事として誕生会や運動会、お楽しみ会がありますが、リズム参加にも多くの保護者が来てくださり子どもと一緒に音楽に合わせて体を動かし、「楽しかった」との感想をいただきました。今後も継続して行きます。

【食育活動】では野菜栽培やクッキング、日々の友達との給食以外にも今年度はアレルギー食に加えハラール食等様々なタイプの子どもに対応してきました。外国にルーツを持つ子どもが80%を超える当園の特色とも言えます。今後も子ども達が楽しみにしてくれるような給食提供のために更に工夫をまいります。

【研修】にも積極的に参加して専門的な知識を身につけていますが、今年度は例年の研修に加えリズムの専門家を招いての職員研修と鶴見大学短期大学部の天野先生による姉妹園との合同研修を開催しました。保育の質を高めるために大変有意義な研修であり、この学びを保育の中で生かしていきたいと思えます。

【保育の質の向上】については常に目指していくべきことであり継続して取り組んでいく課題です。次年度は第三者評価を受審し保育の質向上に役立ててまいります。

今後の課題として、職員同士が気づいたことを気軽に伝え合える風通しの良い職場環境、職務内容の明確化による共同体制の構築への努力を職員一人一人が心掛け、より良い環境の中でより良い保育を提供できるよう、職員一同努めてまいります。

最後になりましたが、今年度も寿福祉センター保育所の運営にご理解とご協力を下さった保護者の皆様、地域の皆様に心から感謝申し上げます。ありがとうございました。